

はじめに

1 「あだち幼保小接続期カリキュラム」策定の趣旨

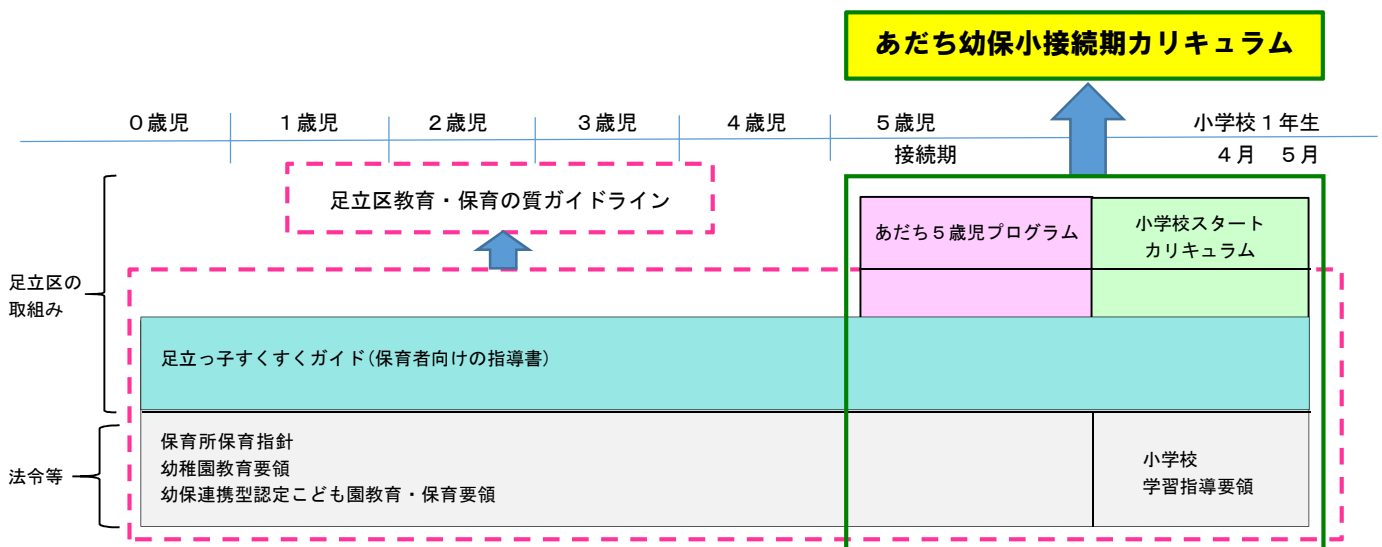
足立区は、教育大綱（平成27年度策定）で「夢や希望を信じて生き抜く人づくり」を基本理念として掲げ、乳幼児期から青少年期、成人期へと各世代で培った力を次の世代へつなげ、支えていくことを目指しています。

乳幼児期（就学前）は、人間形成の基礎を培う重要な時期です。子どもたちの「生きる力の基礎」となる資質・能力は、就学前教育・保育施設（幼稚園・認可保育所・認定こども園・認証保育所等）において、それぞれの発達の実情や興味・関心等を踏まえた遊びを通しての総合的な教育・保育の中で育まれていきます。

その資質・能力を青少年期（就学後）に滑らかに引き継ぐために、就学前教育・小学校教育に携わる保育者・教師には、子どもの姿や双方の教育・保育内容を共有し、互いの指導に生かすことが求められます。

そこで、足立区では、保育者の指導書としての「足立っ子すくすくガイド」、子どもたちが小学校で学ぶ喜びを味わうための意欲や態度を育むよう、5歳児の教育・保育に焦点を当てた「あだち5歳児プログラム」を策定するとともに、子どもたちが円滑に小学校生活をスタートできるよう、小学校入学時に焦点を当てた「小学校スタートカリキュラム」¹を活用してきました。また、区内のどの施設においても一定レベルの教育・保育を受けることができる「質」の確保のための「足立区教育・保育の質ガイドライン」を策定・活用し、教育・保育内容の充実に取り組んでいます。

【参考】足立区における教育・保育の質の確保・向上に関する施策



¹ 「小学校スタートカリキュラム」とは、足立区立小学校校長会研究委員会「教育課程委員会」が平成22年度に作成し、改訂を重ねてきたものです。

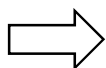
平成29年3月に改訂・改定された「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（以下「幼稚園教育要領等」）及び「小学校学習指導要領」では、これまで以上に就学前教育・保育施設と小学校の連携、円滑な接続の重要性が示されています。

具体的には、改訂・改定された幼稚園教育要領等では、「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱から構成される資質・能力を一体的に育むこととし、幼児教育の特質を踏まえた「ねらい・内容」が領域別（健康、人間関係、環境、言葉、表現）に示されています。また、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、育みたい資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（以下「10の姿」）」として明記されています。

一方、改訂された小学校学習指導要領では、「知識及び技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力、人間性等の涵養」という3つの柱から構成される資質・能力を偏りなく育むことが求められ、各教科の目標や内容が3つの柱を踏まえて構成されています。さらに、就学前教育・保育施設と小学校の接続を図るために、「10の姿」を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期の教育・保育を通して育まれた資質・能力を考慮した教育活動を実施することが求められています。

このことにより、幼稚園・認可保育所・認定こども園・認証保育所等と小学校、さらには中学校、高等学校まで、縦のつながりを見通すことができるようになりました。

足立区では、教育大綱の策定や幼稚園教育要領等及び小学校学習指導要領の改訂・改定を踏まえ、乳幼児期の教育・保育のさらなる充実や、幼児教育と小学校教育の接続の一層の強化を図るため、有識者、保護者代表、小学校長、公私立の就学前教育・保育施設長で構成される「あだち幼保小接続期カリキュラム検討委員会（以下「検討委員会」）」を設置し、「あだち5歳児プログラム」と「小学校スタートカリキュラム」の見直し・一体化について検討しました。検討の結果、5歳児クラスと入学後4、5月くらいまでの子どもたちの円滑な接続のために作成された手引きがこの「あだち幼保小接続期カリキュラム」です。



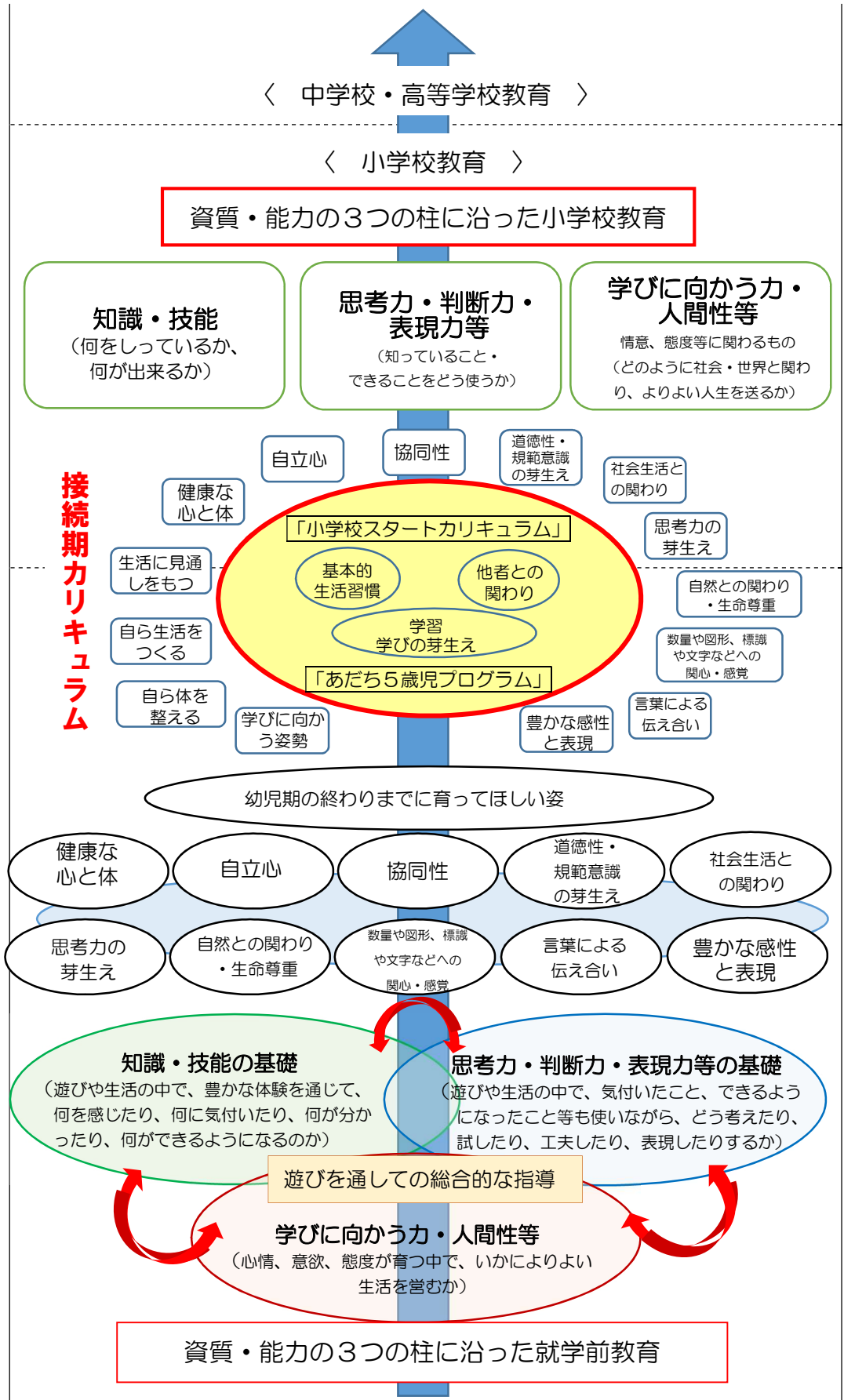
「あだち接続期カリキュラム」の位置付けについては次ページ参照

【参考】「あだち幼保小接続期カリキュラム」の位置付け

足立区教育大綱の
基本理念
夢や希望を信じて
生き抜く人づくり

6歳から
学ぶ
自立する力を培う 青少年期
旺盛な好奇心のもと、希望や意欲を持って行動し、様々な経験を重ねる中で、思いやりの心やコミュニケーション能力、基本的な知識やそれを活用できる思考力を身につける時期

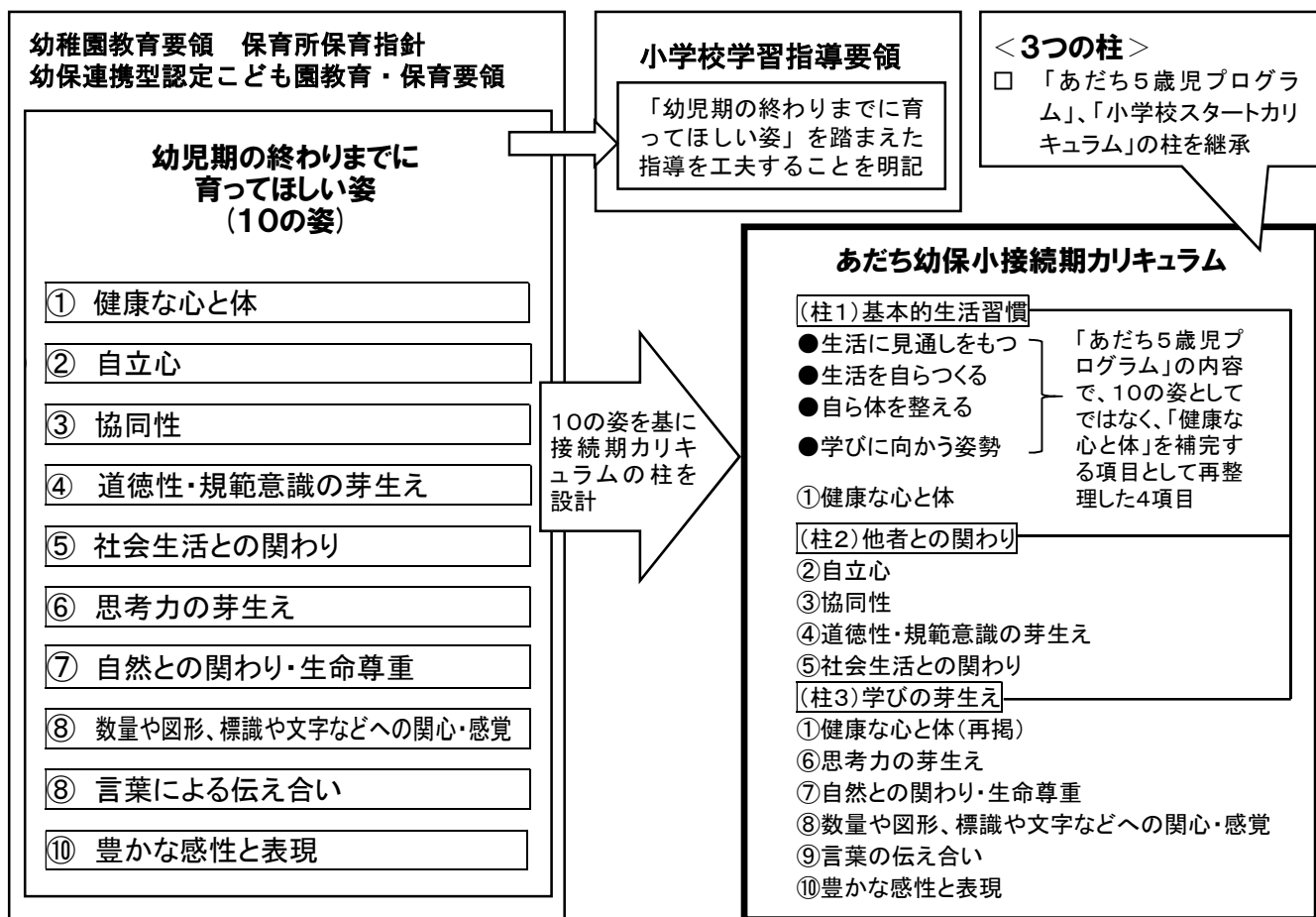
0歳から
育つ
人間形成の基礎を養う 乳幼児期
身近な大人たちからの深い愛情、様々な出会い、かわりあいを通して、子どもたちが自己肯定感を培う時期



2 基本設計と構成

「あだち幼保小接続期カリキュラム」は、「あだち5歳児プログラム」と「小学校スタートカリキュラム」を統合し、「足立区教育・保育の質ガイドライン」との整合性を図りながら、幼稚園教育要領等及び小学校学習指導要領の改訂・改定内容等²を踏まえて再構成したものです。

【参考】「あだち幼保小接続期カリキュラム」の基本設計



5歳児の移行期と小学校入学後の児童に焦点を当てて、保育者・教師が互いの教育・保育の内容や、子どもたちの発達と学びを理解し合い、双方の指導に活かすことができるよう作成しています。

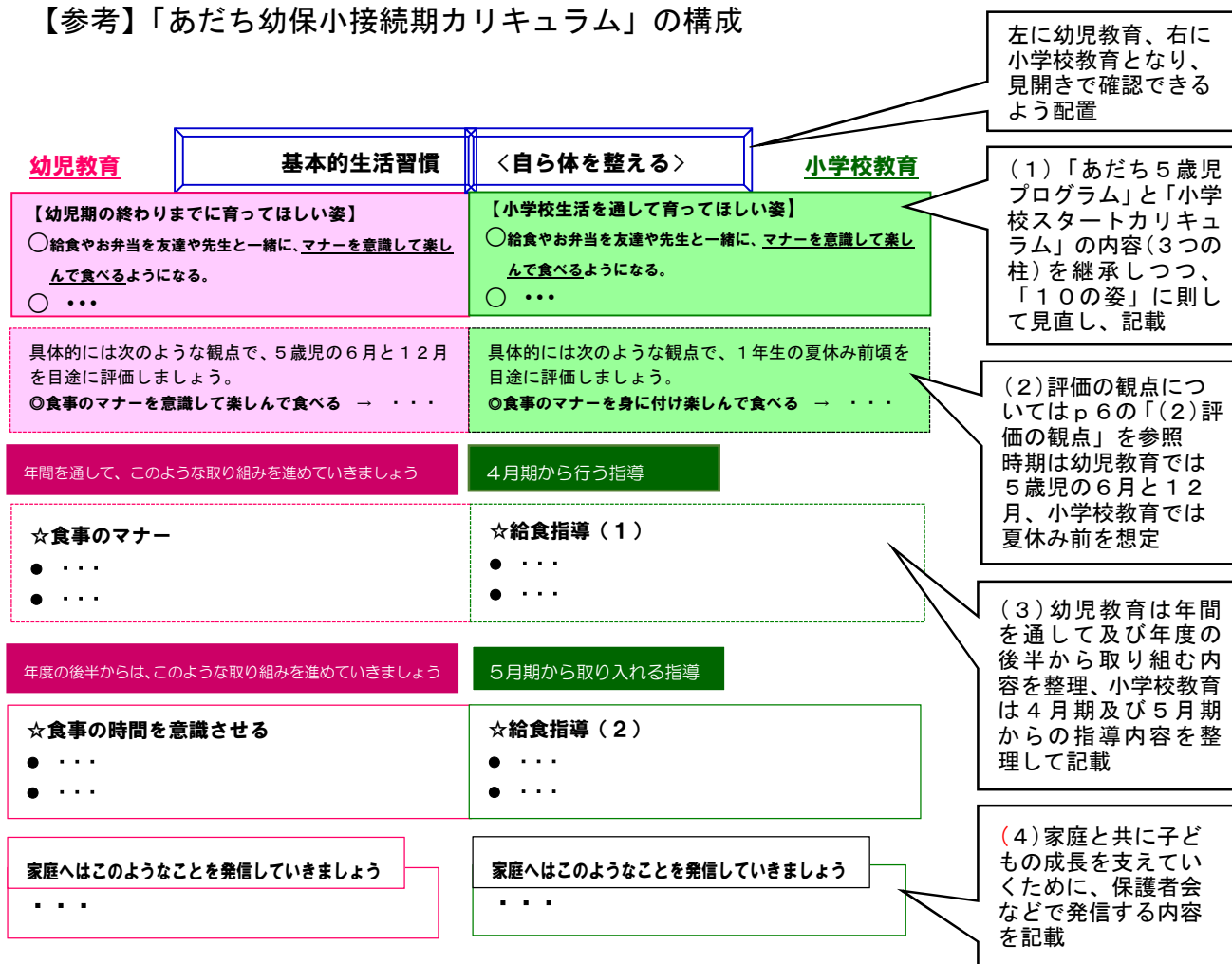
具体的には、「あだち5歳児プログラム」と「小学校スタートカリキュラム」の基本的な枠組みを引き継ぎ、「基本的な生活習慣」「他者との関わり」「学習・学びの芽生え」の3つを引き続き柱として位置付けています。

² 足立区「子どもの健康・生活実態調査」の結果等についても盛り込んでいます。

さらに、この3つの柱は、「あだち5歳児プログラム」と「小学校スタートカリキュラム」の内容を「10の姿」の枠組みに沿って分類・整理した10項目と、「10の姿」の中の「健康な心と体」を補完する内容を整理した4項目の合計14項目で構成しています。

1項目当たり2ページで構成し、左ページに幼児教育、右ページに小学校教育について記載し、見開きで接続の流れを確認できるようにしました。是非、幼児教育と小学校教育を比較しながら、その接続を意識してご活用ください。

【参考】「あだち幼保小接続期カリキュラム」の構成



以下、個別の内容ごとに説明します。

(1) 育ってほしい姿

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】と【小学校生活を通して育ってほしい姿】については、「あだち5歳児プログラム」と「小学校スタートカリキュラム」の内容を継承しつつ、「10の姿」に則して見直しました。就学前と就学後の育ってほしい子どもの姿が対になるように記載してあります。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】は、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、保育者が適切に関わることで、特に5歳児クラス後半の生活で見られるようになる姿です。

ただし【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】は到達すべき目標ではなく、個別に取り出されて指導されるものでもないことには留意が必要です。何より、幼児教育は環境を通して行うものであり、子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特성에応じてこれらの姿が育っていくものです。また、全ての子どもに同じように見られるものでもありません。

【小学校生活を通して育ってほしい姿】は接続期だけに特化して育つ姿ではなく、小学校生活全体を見据えて育つ姿として捉えています。

(2) 評価の観点

「あだち5歳児プログラム」では、「指標」を設定し、「評価時の考え方」を合わせて示すことで、子どもの育ちの見取りに活用していました³。

「あだち幼保小接続期カリキュラム」では、各ページで示した【育ってほしい姿】に関する保育者・教師の理解を助け、個々の子どもの育ちの状況の把握に資するよう、「あだち5歳児プログラム」での「指標」に関する基本的な考え方を引き継いで、幼児教育と小学校教育の接続を意識した形で「評価の観点」を示しています。【育ってほしい姿】のうち「評価の観点」に係る部分に下線を引いています。評価の時期としては幼児教育では5歳児クラスの6月と12月、小学校教育では夏休み前を想定しています。

なお、幼児教育の「評価の観点」に関しては、(1)で述べた通り、【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】は到達すべき目標ではないことを踏まえて活用する必要があります。一方、小学校教育の「評価の観点」は、小学校学習指導要領で定める「学習評価」への移行を意識して記載しています。引き続き、保育者と教師とで幼保小連携に関する議論の中で、円滑な接続の実現に努めていく必要があります。

さらに取り組みを進めて、個々の子どもの育ちの状況をよりきめ細かく把握する観点から、「あだち幼保小接続期カリキュラム」の各項目で示した「評価の観点」に加えて、各園・学校の実情を踏まえた「評価の観点」を作成し、両方を活用していくことも考えられます。

(3) 取り組み内容

【育ってほしい姿】に合わせて取り組み内容を具体的に記載しました⁴。幼児教

³ 「小学校スタートカリキュラム」では、指標等の設定は行っていません。

⁴ 5歳児の移行期の子どもの姿は5歳になった時に突然みられるものではなく、0歳児からの育ちの連続性の中で育まれていくものです。それぞれの時期の子どもの発達の特徴、発達に必要な経験内容、教育・保育の重点等については「足立っ子すくすくガイド」を参照してください。

育では年間を通して取り組む内容と年度の後半から取り組む内容を整理し、小学校教育では入学直後の4月期から行う指導内容と5月期から取り入れる指導内容を整理して記載しました。

5歳児クラスの接続期の取り組みで培われた子どもたちの資質・能力が、入学後に滑らかに引き継がれることや、子どもたちの不安が少しでも軽減され、期待をもって小学校での学びに臨めるような指導内容となることを願って見直しました。

(4) 家庭への発信

家庭で取り組んでいただきたいことについて、保護会やお便り等での発信に活用することで、家庭と共に子どもたちの成長を支えていけるよう、各ページの末尾に記載しています。

3 幼保小連携への活用

「あだち幼保小接続期カリキュラム」の検討過程では、検討委員会で幼児教育と小学校教育の接続や幼保小連携の在り方について様々な議論が交わされました。活動への取り組み姿勢や心の動きを読み取り、内面理解をめざす幼児の評価から、学習指導要領が示す内容が一人一人の子どもに確実に身に付いているのかを評価する学習評価への移行にあたっての保育者と教師の連携の在り方など、多くの課題が改めて浮き彫りとなりました。

保育者・教師の方々には、是非、各項目に記載された内容について、子どもたちの姿と重ねながら接続期における育ちの連続性や変化を共有するとともに、日々の教育・保育をどのように変えていくべきなのか、幼保小連携ブロック会議などの場を通じて幼保小の垣根を越えた議論を活発化させ、連携を深化させるためにご活用ください。

平成30年12月
足立区教育委員会